



さくらライフ ケースカンファレンス



雨に映える紫陽花の花も美しく、いかがお過ごしでしょうか。

6月1日（月）に移転し、名称が変更となったさくらライフ錦糸クリニックにて、同月19日（金）、大変ご好評、恒例となっております「介護事業者の皆様とのケースカンファレンス」を開催致しました。今回は8事業所、11名の介護事業者様にご参加を頂き、4つの事例を取り上げさせて頂きました。

当院参加者： 松枝 啓 院長
 古屋 則子 看護師リーダー
 小比類巻 智子 看護師
 加藤 正徳 精神保健福祉師リーダー



● 事 例 ●

1. 70歳男性。要介護度5。姉と同居していたが、現在は病院に入院中。非常に酒好きで、転倒による骨折や、褥瘡、食思不振、栄養状態不良により入退院を繰り返している。本人から親戚まで皆楽観視している。今後在宅に退院となった場合、これ以上繰り返さない為の工夫やポイント、ご意見を頂戴できればと思います。
2. 47歳女性。障害者手帳2級、障害者区分2。独居。反復性うつ病、情緒不安定、腹痛、療育手帳は無いが知的障害があると言われている。本人に病識無し。ヘルパーに対する一方的なクレームで訪問できるヘルパーはわずかになっている。彼女が心穏やかにケアプランである“共に行う家事”をヘルパーと一緒に出来るようになるにはどうしたら良いでしょうか？
3. 73歳女性。要介護度3。4月中旬にショートステイ導入の為に担当会議の予定だったが、キーパーソンの次女がかかりつけ医に懇願し病院に緊急入院させる。手足を拘束されるも、翌日にご本人のご希望で退院した。その後も次女の迷走により振り回されている。現在担当している方の中で一番の困難事例の為、皆様のご意見をお聞かせ頂ければと思います。
4. 93歳女性。要介護度2。孫と同居中だが介護はしていない。その他のご家族の協力も得られていない。そんな中、認知症状の進行により現状に沿った支援が困難になっている。ご本人の現状に対する理解や、介護保険サービスへの理解が得られていない中での今後の対応について、ご意見をお聞かせ下さい。

ご参加頂いた皆様方にとって少しでもお役に立てれば幸いです。当院にとっても大変勉強になり、4つの事例のその後の状況を伺いつつ、今後の取り組みに是非反映させたいと考えております。ご意見やご要望がございましたら、是非お聞かせ下さい。

今回ケースカンファレンスを開催したさくらライフ錦糸クリニックの多目的室の愛称を「Sakuraカフェ」とし、地域の医療や介護関係者様の交流や情報交換の場をフリースペースとして提供しております。お気軽にお問い合わせ下さい。



医療法人社団 さくらライフ

【内科・精神科・総合診療科・訪問診療・訪問看護】

代表 中田 賢一郎

〒130-0011 東京都墨田区石原4-12-10 ABY BLDG1F

TEL : 03-3625-5547 FAX : 03-5819-2258

URL : <http://www.slclinic.com> E-mail : info@slclinic.com